

芸備線の維持・存続求め行動

要請団が中国運輸局・庄原市を訪問！！



6日の中国運輸局への要請では、鉄道部から部長をはじめ各担当を受け持つ4名の職員が参加されるなど、鉄道現場への関心の高さが伺われました。

要請では、運輸局側から鉄道部長の挨拶があり、国労側からは倉下委員長が本日の要請行動の趣旨を含めて挨拶を行い、その後、事前に対する文書回答について一項目づつ意見交換

数字で表せないもの

芸備線後庄原・備中神代間を対象に設置をされた「再構築協議会」が結論をだす目安とされる3年目となります。国労中国地方本部として7月6日に中国運輸局、翌7日には対象区間の多くを抱え、再構築協議会のメンバーでもある庄原市役所を訪問し、要請行動を展開してきました。

換していく形で進められてきました。

はじめに芸備線を対象とする再構築協議会を巡る動きについて、意見を交わしてきました。国労からは現在進められている実証実験について、「費用対効果について、数字が一人歩きをして、数字では表せない芸備線の存在価値について、しっかりと評価・分析をして貰いたい」と要望、中国運輸局からは「数字に出にくい定性的評価（鉄道の安心感・観光面・街づくりへの波及などについて、評価対象に含める設計」である旨、回答がありました。

また、結論を出す目安である3年目を迎える中で、国労からは「再構築協議会は合意形成の場であり、期限だからと結論が押し付けられることへの懸念」

貴重な体験！これからの活動に生かしたい！

要請行動に参加した組合員の感想を報告します。

中国運輸局要請行動に参加して、国はあくまで行司役であり積極的な参加を避けていると改めて感じました。しかし、ローカル線問題をはじめ我々が働いている現場で何が起きているのかということをしつかりと伝えることが出来たのではないかと思います。

庄原市については、鉄道を残すという基本スタンスは変えておらず、予算制約もある中で出来ることを精一杯やっておられると感じました。経済的な価値にとらわれず、駅や鉄道があること自体が町の価値であると思いました。

（岡山地区本部 T・K）

中国地本結成以降、芸備線問題やJR西日本における様々な問題点を指摘し、国労として意見を言える場の必要性を再度学びました。中国運輸局



鉄道部幹部クラスの出席に驚きました。今後の課題として貨物・バス会社等での諸問題を集約して、運輸局要請が出来る体制を確立していく必要があります。

（広島地区本部 Y・N）

初めての国への要請行動でしたが、真摯に受けていただき貴重な経験となりました。

団体交渉の前であれば会社との議論も違う方向に行くのではと思いました。庄原市とは、芸備線存続に向けた方向性は同じですが、再構築協議会の判断を待っているにも見え、その対応を責めるような議論になったのではないかと少し反省もしたところです。

（米子地区本部 T・A）

中国運輸局要請では「存廃という前提を置かず、中立的な立場から・・・」という回答を見て、行司的な立場に国の限界と無責任さを感じました。

一方、庄原市においては「今後の交通体系の在り方について、国に財政支援を求めたい」と言われ、厳しい財政事情にあっても芸備線存続の思いを感じました。

（岡山地区本部 J・A）

を伝えましたが、中国運輸局からは「協議の延長など仮定の議論は差し控える」との回答となりました。

その他、路線廃止の法的枠組みや災害復旧支援の在り方、列車の増便・無人化施策などについて、予定時間を大幅に超え白熱した議論が交わされていきました。また、中国

日が変わり7日には、庄原市役所地域交通課を巡り、芸備線の維持・存続に向けた取り組み状況や国やJRへの要望などについて意見交換を行って来ました。

庄原市から再構築協議会の現状として、「直近の会議にて、今年の11月に大卒での方向性のとりまとめがされる」との提示があつ

「乗車アンケートでは、定性的意見（観光・まちづくりなど）は収集しているが、報道では経済効果の数値面が強調されがち」など、廃線へと議論が進むことにも感じました。

本日の要請について、

市長をはじめ関係部局で共有していただくと共に、市側からあった国の財政支援やJRの路線活性化への積極的な関与などの要望については、国労としてもその実現に向けこれまで以上に奮闘していくことを約束し要請行動を終えて来ました。

廃線議論を警戒！！

運輸局で対応できない要望事項については、上部機関である国交省に伝えて頂くことを確認し要請行動を終えてきました。

「それを踏まえて市民向けの説明・意見聴取段階へと移行する予定」と言われていました。



2026年
7月11日
第4号
発責 倉下文明
編集 教宣部